

令和元年度生野区区政会議 第1回まちの未来部会

1 開催日時

令和元年6月3日（月） 19時00分～21時02分

2 開催場所

生野区役所5階502・503会議室

3 出席者

（区政会議委員）7名

川上委員、服部委員、和田委員、山本委員、亀田委員、田中委員、伊藤委員

（生野区役所）7名

山口生野区長、櫻井副区長、中村地域まちづくり課長、橋本企画総務課長、清水区政推進担当課長、大西都市整備局生野南部事務所長、山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長

4 委員に意見を求めた事項

（1）平成30年度生野区の取組みの振り返りについて

資料1 平成30年度の生野区の取組み振り返りについて
：まちの未来部会用抜粋分

（2）その他

参考資料1 前年度の部会でいただいたご意見・ご提言（要約）と区の考え方、対応

※当日配付

参考資料2 前年度の全体会でいただいたご意見・ご提言（要約）と区の考え方、対応

※当日配付

5 会議内容

○川上部会長

どうも皆さんこんばんは。お忙しい中、どうもありがとうございます。

それでは、令和元年度第1回まちの未来部会ちょっと座らせてやらせていただきます。よろしくお願いいたします。

部会長の川上でございます。申しおくれました。ただいまから、令和元年度第1回まちの未来部会を開催いたします。区政会議は地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが区役所と一緒に、意見を述べる場となっていますので、部会でお出されたご意見は全体会議において報告し、共有することとなります。その中で、この部会は生野区のまちの魅力や地域活性化などについて、有効で活発な議論が行えるよう意見交換を進めていきますので、皆様よろしくお願いいたします。

それでは、開催にあたりまして、山口区長からご挨拶をお願いいたします。よろしく申し上げます。

○山口生野区長

皆さん、こんばんは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

毎回、私この部会いつも和気あいあいと楽しく、いろんなご意見いただけるので楽しく参加というか、私もいろいろお答えしながら皆さんのご意見伺っています。

本日は、昨年度の一年間の区役所の取り組み、またその取り組みが実際地域ではどのように映っているかでありますとか、また私たちの目の届かない地域の情報でありますとかそういったところ、まちの未来部会ですので、生野のまちが今後どんどん盛り上がっていく、いろんな人がこう、まちづくりに参加するにぎやかなまちになるように、皆さんのご意見またいただけたらと思っております。

本日、資料に生野の広報紙の1月号つけておりますのは、この1月号の特集がシティプロモーションというか、生野のまちの魅力をいろんな人たちが発信してますよという紹介の特集だったものですから、今回のテーマに合っていると思って配らせていただきました。こういったいろんな活動の内容でありますとか、伊藤さんもここにいらっしゃいますけれども、取り組みも参考にしながらまたご意見いただければと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○川上部会長

どうもありがとうございました。

それでは、議事に入るにあたりまして、これからは学識の委員であります近畿大学の田中委員に会議の進行等をお願いしたいと思います。田中委員よろしくお願いいたします。

○田中委員

皆さんこんばんは。部会長からご指名いただきました田中と申します。これから会議の進行をさせていただきますので、皆様よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の会議次第に沿いまして、議題1、平成30年度生野区の取り組みへの振り返りについて、区役所のほうからご説明をお願いいたします。

○清水区政推進担当課長

区政推進担当課長の清水でございます。

それでは、私のほうより平成30年度の生野区の取り組み・振り返りについてご説明いたします。お手元の資料1とあるA4横のパワーポイントの資料をご覧ください。1枚めくっていただきまして、目次がございます。この目次の項目に沿いまして、それぞれの担当課長からご説明させていただきます。下の3ページのほうに、この部会にかかわります平成30年度の生野区の取り組み全般が記載されています。生野のまち、人が持っている貴重な地域資源、ポテンシャル、活力を引き出し、区の内外にプロモーションをしていくといった積極的な取り組みの分野となっております。

それでは、これから項目ごとに担当課長からの説明に入ります。説明の都合上、資料が前後することがございますが、あらかじめご了承をお願いいたします。

○中村地域まちづくり課長

生野区役所の地域まちづくり課長の中村です。

まず、私のほうから1、ものづくりの伝統を守り、受け継がれるための支援というところから説明させていただきます。座って説明させていただきます。

まず、1に掲げてる事業ですけれども、まず区内の製造業で働く人や技術の魅力をイラストを交えながら紹介するリーフレット、生野ものづくり百景ですね。こちらのほうを昨年度は6社、右下に5という数字が入っているのを見ていただきますと、6社新たに追加しまして合計77社となっております。それで、これはイベント等でこの百景のパネルを展示するなどして、ものづくりのまち生野区というのを広く発信しております。

それから続きまして、その他の取り組みとして次のページをめくっていただけますでしょうか。6という右下のところですが、まず、生野工業高校生を対象としましてインターンシップを開催しました。こちら2日間で3社、3名ということですが、参加した生徒や協力いただきました企業様からは好評いただいております。

それから、こちら17回目になるんですけれども、生野工業高校と共催で開催しております、ものづくり教室、こちらのほうは34名の参加で、子どもたちが参加しまして、生徒が丁寧に技術やものづくりの楽しさを子どもたちに教えて伝えていると。子どもたちもでき上がった作品に満足しております。

それから、その他こども工作教室ですとか、見学ツアーの実施をやっておりますが、この中の芸術文化に親しむワークショップということで、昨年度に生野区のものづくりというのは芸術的な色彩をも伴った作品をつくっておられるところもあるということで、こういった文化を知っていただくといえますか、経験していただくということでワークショップを切り子ガラスですとか、大阪唐木指物などの体験を全部で9回実施しまして、75名の学生の方に参加いただいております。

それで30年度の業績目標としましては、7にいただくと、インターンシップへの参加者数、先ほど申し上げました3名というのは目標は10人ということで、こちらがちょっと目標に達しなかったと。もう1点の、ものづくりページのビュー数というのは、まあまあ実績目標に達しているんですけれども、なぜ3人かということになりますと要因分析は、対象は2年生のみであったということと、たまたまその事業実施日にハローワークが行うインターンシップの日と同じになったというふうなことで、希望先が分散してしまったのではないかなと思っております。

今年度は、ものづくり百景、先ほど77と申しました。これを今年度中にも100にしておこうと。それから、その他のワークショップですとかイベント、こういったものを事業を再構築してものづくりの楽しさや地域における企業の重要性を子どもたちに発信するというのを考えております。

それで今回、これからちょっとDVDを見ていただくんですけれども、子どもたちへの発信ということで、先ほど申し上げました芸術文化に親しむワークショップと、こちらのほうは単に参加されてる方々以外にも、こういったことがあるのかということもDVDにしまして、これを今現在ホームページに掲載しております。ダイジェスト版とフルの放送があるんですけども、本日はそのダイジェスト版のほう

をちょっと今から見ていただきたいと思いますので、ちょっと前のほうのスクリーンをご覧くださいませでしょうか。よろしくお願いいたします。

(紹介VTRを流す)

○中村地域まちづくり課長

ありがとうございました。ただいまのがダイジェスト版ですので、ちょっと短かったと思いますけども、ホームページには27分のフルバージョンが入っておりますので、もしよろしかったらまたご覧いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、続きまして2、空き家の利活用による新たな魅力づくりということですが、取り組み自体は空き家カフェというのが、これ地域が主体となって空き家対策会議というのやっておられるんですけども、そちらに参加する中で、そちらのほうと共催でこの空き家に関するセミナーというのを1回やっております。参加者は64名ということですよ。

それから、4区合同というのは、これは各区役所、阿倍野区を初めとした合同で空き家の管理セミナーをやっております。さらに、再生まちづくり講演会というのは、こちらは空き家というよりは、まちづくり自体をどういうふうにしていけばこういうふうになりましますというところで、空き家も活用してということで講演会をやりました。これは6回やっております。

それから、空き家の利活用アンケートと言われてるのは、これ空き家の所有者がなかなか見つからないということで、空き家の所有者がどういった方がいらっしゃるか、それで、その方々に例えばセミナーをやるのでご紹介させていただきということでご利用いただくというようなことで、地域の皆様に協力を得ましてやった結果が66件ということになっております。

それで、空き家の利活用という場合でも、やはり使いたいという人と、それから使ってもいいよという人のマッチングですとか、発掘は大事ですので、この中でそういう取り組みもやっているということですよ。

業績目標としましては、空き家の利活用を促進する取り組みに着手した地域ということで、目標1地域のところ、実績としては1地域が利活用を促進する取り組みをやっているかというふうに言っていていただいておりますので、これを実績とさせていただきます。

先ほどご説明しました空き家カフェの拡大版というところでは、アンケートとしましては、初めての参加でしたけども大変興味ある事例を見せていただきましたとか、取り壊さずに何とかしたいというところが新しい発想だったということですよとか、それから、地元の事例を聞いてよかったですと、定期的に開催してほしいというふうなことが出ております。

ちょっと申し忘れましても、この広報紙に、空き家の活用事例というものを11回にわたって紹介しております。皆さんもご覧になったかと思いますが、こういうことを今年度も続けていこうかと思っております。

まず、私のほうからは一旦この1、2を説明させていただきました。

○清水区政推進担当課長

続きまして、(3) 10ページ、「生野の魅力」の発掘・浸透でございます。清水よりご説明させていただきます。

まず、昨年度の取り組み実績でございますが、広報紙、ブログ、ツイッターのイメージを刷新いたしました。毎月テーマを設定した特集記事を作成いたしました。また、ブログの発信数は76件。先ほど1月号ご覧いただいたんですけれども、毎月8ページに、空き家のリノベーション事例紹介いくのd eリノベ、また区内でお住まいの外国人の方を1人ずつご紹介していますIKUNO×グローバル、ものづくり企業の紹介はピックアップものづくり百景ということで、百景に載っている方をお1人ずつご紹介しています。それらを、広報紙だけではなくブログやツイッターなどと連携をしながらご紹介を深めているところでございます。

1年間でのプレスリリース、報道発表は38件でございました。

その次の、官民連携サイトいくのぐらしの開設、30年10月からとありますが、こちらが1月号の特集見開きのページにもご紹介させていただいております、いくのぐらし．c o mという新しいサイトができております。こちらのほうも広報紙とイベント情報ですとか連携させていただいております。

30年度の業績目標といたしましては、年間のブログビュー数といたしまして、目標1万8,000件でございました。実績としまして2万2,224件。プレスの情報がメディアで取り上げられた件数、目標12件以上、実績のほうは18件でございました。

広報紙を読んでいたいただいた区民の方からご意見を頂戴したものとしましては、まちの人の顔が見える紙面になった。特集記事がわかりやすい。読み物として毎月楽しみにしている。また、読む気になったという、ありがたいご意見を頂戴しております。

本年度は、7月号より広報紙の全戸配布を開始できる予定でございます。また、文字やデザインなど、今後も工夫しながら手に取り、実際にご覧いただける広報紙づくりを初めとした、効果的な情報発信に取り組んでまいります。

私からは以上でございます。

○中村地域まちづくり課長

あらためまして、地域まちづくり課長中村です。私のほうから、残りの4と5、ご説明させていただきます。

まず、4、地域活動協議会（まち協）の支援と、右下12というところ。地域課題に自主的に自律的で取り組む地域まちづくり協議会、生野区は地域まちづくり協議会、地域活動協議会ですけれども、そちらの自律的な地域活動を進められるように地域活動協議会補助金を交付して、財政的な支援を行っておるところです。ここにありますような取り組み、例えば高齢者と小学生の交流事業ですとか、これまち協合同ミーティングの開催というのは、各まちづくり協議会さんが実際ほかのところがどんなことをしてるのかなといったことをいろんな皆さんが集まっていたいて、その中でテーマを決めて語り合うというふうなことを開催したというのを写真に載せております。

目標としましては、各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められると感じている区民の割合ということで、これ区役所からのアンケートで数値を出させ

ていただいておりますけれども、目標40%以上に対しまして、実績は51.1%と目標達成をしております。

この合同ミーティングの中で参加者のアンケートとしまして、初めて参加させていただきましたが大変勉強になりましたとか、皆さんの意見を参考に生かしたい、毎年このようなミーティングがあればいいですねというふうなご意見をいただいております。

続きまして5番目、次めくっていただきまして、地域活動協議会の自律運営促進ということで、補助金の交付だけでなく、新たな地域コミュニティ支援事業という形で地域まちづくり協議会の支援を行っております。民間事業者のノウハウを生かして地域まちづくり協議会の事務局機能充実ですとか、担い手の確保などの取り組みを進めて、一步進んでほかの組織NPOですとか民間事業者の連携の取り組みなどを、地域まちづくり協議会が行っていただけるように、この中間支援組織というのも活用して支援を実施しております。新たな担い手づくりの取り組みで、まちカフェをやって担い手を発掘したりですとか、異文化交流事業への支援ですとか、こういったことをしております。

ここで上げました目標は、この地域活動協議会の構成団体が、自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合ということで、目標80%に対して実績は80.1%と、一定の目標は達成できているというふうな状況でございます。

私のほうからは以上です。

○清水区政推進担当課長

担当からのご説明は以上でございます。

これまで、各取り組みと目標達成状況についてご説明いたしましたが、16ページに全体の目標達成状況の一覧を掲載しております。

これらを踏まえました総括といたしまして、次の17ページでございます、区の魅力あるまちづくりのためには、子育て層や若年層等、対象者ごとに生野区の知名度、好感度が上がる情報の発信を継続的に行うこと、また、外国人に対しては、やさしい日本語での行政情報などを継続的に発信することが重要です。

生野区が有する魅力的な地域資源をより一層高めるように、広報紙やブログ、ツイッター等、各種広報媒体の特性を生かして区の内外に効果的に発信していきます。

また、まちの魅力向上、地域活性化のためには、地域住民による自律的な地域活動を重ねていくことが求められることから、引き続き地域活動協議会を初めとした各種団体と連携して、ともに持続可能なまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

以上が、区役所からの説明でございます。委員の皆様にはどうぞ活発なご意見よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○田中委員

ありがとうございました。

そうしましたら、ただいまの説明について委員の皆様、何かご意見とかご質問とかございましたら挙手の上、お名前を述べていただきますよう、ご協力お願いします。ご意見を言っていたらとくにですね、お願いいたします。

順番じゃなくても、感じることを何でも言うていただければ。いかがでしょうか。一応おおよそ目標は達成されているということなんでしょうけれども、若干ですね、何ですかね、ものづくりの伝統を守り、受け継がれるための支援に関してのみ未達成というふうに書かれています。もっとうこういうふうなことをすればいいとか、こういうことを地域でやっているんでどうだろうかというご意見がございましたら、おっしゃっていただければと思います。お願いいたします、どうぞ。

○川上部会長

川上でございます。今、未達成と言われたんですけど、ものづくりの、これ先ほど発表ありましたように、高校生のインターンシップのこの分だけが何かほかのイベントとかち合って実績が3人だったということで、あとはあれじゃないですか、目標のものづくりページのビュー数なんかは超えておりますし、まあまあ達成はしてるんじゃないですか。

それで、私ちょうど見てまして、私とこの地域で西浦さんって匠がいらっしゃるんですけど、唐木彫りの、先ほどビデオにも出ておりましたんですけど、本当にあの人もなんか気さくな方で、大体ものづくり、匠って言われるような方、ちょっと変わった方が多いんですけど、一般的には。ですけど、この方なんか本当に気さくな方で何でも協力していただける方ですので、こういった方が生野にたくさんいらっしゃるということは、もっと連携を深めていって活性化していくことによってもっと広がっていくんじゃないかと思っておりますし、そういうイベントをちょっと増やしてもらったらいかがかなと。それと、チラシ宣伝とか何かで宣伝を増やしていただけると、そういうことをお願いしたいなと思っております。

○田中委員

ありがとうございます。

インターンシップの開催に関して、3名がご参加だったということで、3名ということなんですけれども、実際にこれは生野工業高校の方に来ていただいたということなんですけど、高校は特に何か絞ってというか、生野工業高校だけじゃなくてほかにもご案内は差し上げたのかどうか、先ほどチラシの話がございましたけれども、チラシとかポスター、あるいはホームページ等でご案内差し上げてるのかどうか、ちょっとお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○中村地域まちづくり課長

基本は、生野工業高校生を対象にということをやっております。ですから、生野工業高校の学生にインターンシップをやったのは、前年アンケート取りましたら、なかなか生野工業の学生が生野区のものづくりを余り知らなかったからですね、そういったことございまして、やはり実際に体験いただいて、できれば生野区のそういった企業とかにも興味を持っていただくとか、そういったことを考えとったんですけど、先ほど申し上げましたように、たまたまインターンシップ、ハローワークがやるほうをどうしてもやっぱりそちらに興味がいってしまうのかなというところがございましたので、今年度ちょっとやり方をもう少し変えようかなとは思っております。できる限り生野区のものづくり、いろいろとこうやって我々もPRしておりますけれども、これをよく知っていただくというのが大事と思っておりますので、

こういったことを考えていきたいなと思っております。

○田中委員

ありがとうございます。

川上委員。これどういうふう工夫したらよろしいでしょうか。何か3名、たったの3名という考え方なのか、あるいは3名でああいう深いインターンシップの中身が、非常に匠に教えていただくというのはすごくあり得ないというか、ふだんそのほかの地域ではあり得ないようなことだと思ふんです。そこのところ、数字で評価してるんですけども、これ数字じゃなくて例えば質とかその内容とか、そういったものの評価というのはいかがでしょうか。先ほどおっしゃったように西浦さんですかね。

○川上部会長

前宣伝の先ほどおっしゃられたように、やっぱり行き届いてなかった。それと、やっぱり工業高校生だけに絞られたということもちょっとどうかと思いますしね。

○田中委員

もう少しこう広く。

○川上部会長

そうですね。お願いしたいと思います。

○田中委員

ご案内したほうが良いというようなお話ですかね。これ普通科の人たちも、高校区内では4つぐらいあるんですよ。3つですかね。すみません。

工業高校の学生さんもそうですけども、もしかしたら普通科で学んでらっしゃる人がこんなものを見たら、匠になろうかなとかという気のある高校生も出てくるかもしれないということですかね。

○川上部会長

そうですね。商業科の方もね、やはり営業的にはこういうこともプラスになるんじゃないかなと思いますし。ただつくられるだけのものに絞られたと思うんです。ですから、ちょっとそれは技だけに絞られたと思うんですけど、そういうんじゃないしに、こういう広めるという意味のもうちょっと広い観点から考えていただければいいんじゃないかと思います。

○田中委員

ありがとうございます。

これに関しては、何かものづくりに関して、はい、お願いいたします。

○亀田委員

このインターンシップなんですけど、このものづくり百景の会社の中で行かれるみたいな感じなんですか。それに関係なく、ほかにもいろんな企業があるのか。

○中村地域まちづくり課長

まず、協力いただけるところということになりますと、やはりここでつながりができているとか、そういったところが中心になるのかなと思っております。

○亀田委員

それでしたら、例えばインターンシップ募集前にこのものづくり百景のパネル、

全部工業高校持って行って、どっか廊下にずらっと全部並べさせてもらって、この中選べますみたいな形にするのも一つ手かなと思います。以上です。

○中村地域まちづくり課長

ありがとうございます。

また、参考にさせていただきます。

○田中委員

それはものすごいおもしろい意見ですね。せっかく百景があるんで、その百景の中からどれか希望、行きたいなというマッチングですかね、インターンシップの。

○亀田委員

そう。だから、100枚全部張らなくても、今回受け入れできますよという企業分だけ全部展示すれば、ただ文読むよりもインパクト的にはある、どういうのをつくってるとかいう絵でもわかりやすいかなと思ったりしますんで。

○田中委員

さっきのビデオなんかすごくやってるとこ実際に見て興味湧きますよね。動画だと学生さん。

いかがでしょう。ほかに何か。これについて。はい、お願いします。

○伊藤委員

インターンシップの話ではないんですけども、ものづくり百景今年100社完成目標ということで、とっても楽しみです。一方で、これまで掲載してきたものづくり企業の中で、やめられてしまったとことか、そういうところはないのかなとちょっと思ったりしたんです。というのは、私桃谷ロイターをつくってる中でも、ものづくりのコーナー設けてまして、ものづくりの方の取材なんかちょっとさせていただいてるんですけども、次の号で取材させていただこうかなと思っていたところが、つい先月廃業しちゃったんですみたいなちょっと悲しいお話が本当に今日入ってきて、そのものづくり百景とかもどんな状況なんかなとちょっと気になりました。

○中村地域まちづくり課長

今、2社がちょっと廃業されて、ですからホームページの掲載で今載ってるところと、一番最後の段に廃業されたところということで2つ、一応廃業されても中身はまだ見ていただくという形は残してます。

○田中委員

これ廃業、残念なんですけれども、やはりそういう実態があるということも皆さんご存知ないかなと。百景でこれだけの企業があるんだということを知るということはとても大事なんだろうけれども。さっき伊藤さんにお話伺って2社ということで廃業、ちょっと残念ですよね。そういった実態というのも学生さんにご存知なんでしょうか。区民の方自体もご存知の方いらっしゃるかもしれないということですね。

○服部副部長

西生野の服部です。私、今、工業統計調査のほうで回らせてもらってるんですけども、去年は1件ぐらいの廃業だって、今年回って3件かな、廃業あるんですよね。特殊な貝ボタンをやっておられたとこ、お菓子屋さん、もう1件は何やった

かな。3件の廃業を見てるんです。もうやっぱり年がいつてきて、あと継いでくれる者がいてない。貝ボタンなんかほんまに特殊なボタン屋さんなんで、引き継いでやってもらえる人あれば結構仕事になるんじゃないかなと思ったりもするんですけども、息子さんがもう多分やりたくないから、あんまり儲からんのでしょ。だからもう廃業するということで、回ってしてたら。お菓子屋さんも去年回ったときにはもうご主人だけしかいてなかったからどうかなと思って今年回ったら、アンケートはもらったんですけど、後から廃業ということ言うてきはったんで。30件ちょっとですか回ってるんですけど、それだけでも3件廃業ということを知ってるんですけど、やっぱり寂しいなと思うんですけどね。そんなことですわね、今のこの私の西生野の管内だけでもそんだけ廃業していきはるところは。工業立ち上げたっていうのはほとんど聞かないですから。廃業多いです。

○田中委員

ちょっと残念なことではあるんですけど、これって何か方法はないんでしょうかね。どうしたら、その廃業をとめることはできないんでしょうかということなんですけども。それはもう個人のあれなので難しいよという話かもしれないんですけど、言ったら生野の歴史の中でこのものづくりというのは大きな位置づけがあるということなので、何かあの、私以前伊藤さんにペンをちょっと買ったことがあるんですけどいうか。

○伊藤委員

そうですね。平井木工さんの万年筆、ボールペン。

○田中委員

ボールペンです。それは伊藤さんが積極的にPRされたんでしょうか。こういうのが、いいのがあるから皆さんどんどん買ってくださいますとかというご案内をSNSでして下さったので、ああいいなと思って私はそれを購入したということなんですけども。やっぱりそういう買っていただく人がたくさんいるほうがいい。

○川上部会長

そうですね。やっぱり需要供給のバランスで。

○伊藤委員

そうですね。私も購入して、それがすごく格好いいというか自分でも気に入ってるんですけど、それをこうフェイスブックだったかインスタグラムに上げたのを、田中先生が見てくださったということやったと思うんですけども、その南天の木のボールペンですけども、やっぱり何て言うんですか、こう発信はすごく大事ななと思いますし、発信の仕方もやっぱり大事ななと思います。

先ほど見せていただいたDVDなんかはすごくすてきな映像やなと思いましたし、インターンシップとかワークショップの体験なんかの取り組みは、やっぱり効果あると信じたいところですかね。興味ある方は多分、学生さんもそうですし、社会人といいますか大人でも興味ある人たくさんいるとは思いますが、やっぱり知らない人が多いのかなと思うので、私個人としてもやっぱりいいなと思うものは発信していきたいという思いはありますし、何か今されている中でもっと改善ができるんだったらなおよいのかなと思います。

○川上部会長

今おっしゃった平井さんのところ、これも北巽にあるんですけども、関西テレビと、それから新聞、雑誌、もう以前に取材も受けられまして大分PRされてるところですので、知っておられる方が随分いらっしゃると。だから、先ほど私も申しましたように、やっぱり知らせること、やっぱり何かで広く知ってもらおうという、ああいうマスコミにたまたま載られたら割と早いんですよね。そういったんで平井さんのところはもう有名になってしまってますけれど。平井さんとか、先ほどの西浦さんとか、あの辺は割とマスコミでPRされておられますので進んでます。だから、我々が何かこういう広報紙に載せてとか、ものづくり百人衆とか何かそういう雑誌でもつくって区民の皆さんに全部配るということも一つのあれかなと思いますし、それで閉店されていくようなところは、やっぱり後継者の問題や思うんですよね。そのために、今我々がこういうふうな一覧表をつくったりPRもしていくということをやっけていかないと後継者はだんだんなくなっていきますので、当然どんどん減っていきますね。ですから、それを防ぐのにそういう意味でも今のうちにこういうありますよというPRを、こういう方がいらっしゃいますよというPRを、本当にしていかないとだめなんじゃないかなと思っておりますけど。

○田中委員

ありがとうございます。

これでもインターンシップ3名ということなんですけども、これやっぱりそのマッチングさせたり、3名でもこれ見ると例えば器具とかで危ないことになってしまふとあれなので、細心の注意を払ってお一人お一人を教えていただけてることなので、数多くすることができるとかどうかというところはちょっと難しいなと思って、3名でもできたということの評価をできるのかどうかというところはちょっと考えていかないといけないのかなと思うんですけど、これはどうでしょう。

○川上部会長

そりゃ一回ではちょっと無理ですよ。

○田中委員

そうですね。

○川上部会長

何回もこれからやっていって、これから何回も続けていって増えていくのが当然ですから。別に一回でこっだけやったということも、落胆することも、要らないと思いますし。

○田中委員

そうですね。なかなかそのこのこの評価が一年単位の評価なのでこれ。

○川上部会長

長い目で見ていかないと。

○亀田委員

実際100人インターンシップに参加したからいうて、そのままその会社に1人でも入ればもうけものいう形の、3人のうち1人でも就職そこにしてくれたらいいという形の評価の仕方もありなのかなと。要は就労につなげていく、地元への就労。

そういうふうな点を評価項目に入れるとか、そっちを重点するほうが、あくまで参加するだけやったら幾らでも参加者募ろう思たらできるので、長期目標のほうに逆に入れたほうがええんかなと、短期目標ではなくいうふうに思います。

○山本委員

ちょっとよろしいですか。東桃谷、山本です。

お話聞かせていただいていたんですけど、今そのインターンシップ、そこへ就職するために皆さん行かれたんでしょうかな。それとも、こういう企業があるという思いで行かれたんでしょうかな。そこへ就職するためということであれば、果たしてその企業がその人を雇い入れることが可能かどうか、いろんなことが絡んできますからね。そういう意味で、できるだけたくさんの方がインターンシップに参加していただけたらいいかと思うんですけど。

今ちょっと私考えてまして、例えばこのものづくり百景の冊子を例えば中学校とか、高等学校に配付して図書館にでも置いてもらって、表紙でもよろしいですからこの企業に興味ある方は見学できますよとか、見に行くことができますよとか、そういうような現地的にそれが受け入れられるかどうかちょっと別として、そういうような方法も考えたら、1人でも2人でも増えるんじゃないかなと私今ふとそういうふうに思いました。

ですから、今その個々のことを考えていくと、その事業所のことばかりになってほかの事業所ほんじゃどうするねんということになりますので、今はどないしたらそのインターンシップに参加する人をたくさん増やすことができるかという点に絞って考えたほうがいいんじゃないかなと思うんです。

○田中委員

ありがとうございます。

今大学でインターンシップというのがあるんですけども、それはほとんど学生はそこに就職可能だとか、就職できるということをもくろんでインターンシップに参加してるんですね。だから、山本委員がおっしゃったように、本当にそこに就職するというつもりで行くのかどうかというところの部分というのは、とても今ちょっと知りたいというか興味があるところではあると思いますが。

本当に先ほど亀田委員と山本委員がおっしゃったように、いかに1人でもそのものづくりの会社に入られたということになれば、どんだんうちもインターンシップやりたいという人がたくさん出てきて、可能性としては広がっていくということなんですけど、そういう就職したかどうかという評価軸というのは入れられるんでしょうか。ちょっとお伺いしてよろしいですか。

○中村地域まちづくり課長

基本は、まずは知ってもらおうというところから始まってますんで。あと今年もこのままやっていくか、今いろいろご意見いただいたんでいろいろ考えていきたいな、やり方ですね。あるいは、もっと広くということであれば、ここに直接入っていたくのか、それともそのところさっきのような形でもっと紹介していくとか、いろいろなことが考えられると思うんですよ。それやったら先ほど委員のお話にもありました、このよく知ってもらおうということであれば、生野区もこれで百景で頑張

ってるんですけども、大阪テクノマスターという制度もございまして、昨年度は先ほどありました平井木工の平井さんと、それからシューズ・ミニッシュの高本さんがそれに選ばれて、そういった方は言ってみたらものづくりのマスター、プロということで、そちらの方をこう表彰して、それでいろんな活動もしてもらおうという支援もやっております、それがいろいろとこのものづくりを知ってもらおうという一つの手法になるのかなと。

それから、百景のほう、私今ちょっと正確に申し上げられませんのでまた確認した上でやりますけども、学校のほうには、たしか渡してたような記憶もあるんですが、ちょっと間違ったら申し訳ないんで、一応今おっしゃったような形、やっぱり一番大事なのはこれからの子どもたちにもものづくりの楽しさとかよさとか、そういったものを知ってもらおうということが一番大事やと思いますので、そういった点はいろいろ考えていけたらなと思っております。

○田中委員

ありがとうございます。

広くまずは知っていただいといるところからくると、その延長上でインターンシップをとというようなことの次の段階になるということなので、まず広く知ってもらうことが大事だということなんですけども。今動画とかもありますので。YouTubeなんか学生よく見てますので、そこの中でその最新のというか技術をこう紹介しているような画像見ればもしかしたら可能性としては大きいかもしれないし、逆にそこから始まってもう少し広げて区外の学校、大学も含めた広がりをつくっていくという必要あるかもしれないとちょっと感じました。

ほかに何でも、ものづくりのお話は評価の中で未達成と書かれていたので、ちょっと話が広がっていったと思うんですけども、ほかにも達成された部分で、こういう考え方があるんじゃないかというご意見がございましたら、いろいろ聞かせていただければいいかなと。どうぞ。

○和田委員

勝山の和田です。

先ほど広報いくのが全戸配布していただけるということで、非常にありがたいと思っております。やっぱり新聞とってない家にとってはこれなかなか目にすることも少ないので、本当にありがたいことやと思っております。

ちょっと私気になることが、最近やっぱり外国人の方が非常に目につくんですよね。よく多文化共生という言葉言われてますけど、やっぱり古い町会とか場所なので、地元の方はほとんど顔わかってる状況で生活できてるんですけど、民泊なのか何なのかちょっと、要するに外国の方が結構お住まいになってて、災害のときの避難とか対応はどうしたらいいのかなと。私の町会にもたくさん外国人おられるんですけど、学生さんなんか、仕事をされてるのか、観光で来ておられるのか全くわからない状況で、なぜその家に住まれているのかもわからないし、どう対応していいのかもわからないし、言うたら夜に騒いで近所トラブルもたくさんあるし、どうやって日本の文化を伝えて仲よくできるのかなというのが疑問というか、今はもう放ってあるんですけど、しゃべりもできないし放ってあるんですけど、その辺の

対応これからみんなで考えていかないと、人が増えることはいいんですけど、もっと大きなトラブルになったら大変なのかなというのがあるんですけど、その辺のこれからの方針というか進行があればお聞かせ願いたいと思います。

○田中委員

これについては、聞いてよろしいでしょうか。お願いします。

○清水区政推進担当課長

清水です。

今のご意見ありがとうございます。実は去年の10月から、生野区で外国人の方とのコミュニケーションをとる方法をきっかけとしまして、やさしい日本語の取り組みを始めております。

今こちらのステッカーあるんですけども、これは生野区内のお店や病院、事業所などにご登録いただいたところに貼っていただいているステッカーです。こちらを貼っていただいたところに、こちらの地図に落とすてるんですけども、これを日本語だけではなくて、英語、中国語、韓国語、ベトナム語に翻訳したものもつくっております。こちらのステッカーを貼っていただける、町中にこのステッカーが増えるといいなと思っておりますが、また実際に地域でお住まいになっておられる外国人の方と地域の方とのつながりを、どのようにつくっていただくかということがこれから大事になってまいりますので、そのやさしい日本語を地域の方にも外国人の方にもお知らせをする機会をこれから増やしていきたいと思っております。

このマーク、こちらの缶バッジもございますけれども、やさしい日本語を話してくださいという缶バッジと、話しますの2種類つくっております。外国人の方が必ずしも話してくださいという願いをするようなものではなくて、あくまでも初めての最初のきっかけとして挨拶であるとか、優しく小学校1・2年生のお子さんに話しかけるように、ゆっくりと外国人の方に話しかけていただく、それをスタートとしまして、顔の見える関係をつくっていただいたり、北巽のほうで川上会長がこれまでも取り組んでいただいています、地域行事に日生日本語学園の学生さんを多数呼んでいただいたり、また一斉パトロールにも日生日本語学園の学生さん多数ご参加いただいておりますけれども、ふだんから顔の見える関係を少しずつ広げていくことが大事なのかなと思っております。最初は日本語が全くわからない外国人の方も多いんですけども、簡単なやさしい日本語を心がけて会話をまずきっかけとして挨拶、その次に暮らしていくことで大事なごみ出しの問題であるとか、自転車のこともございます、いろんなマナーを優しく伝えていただける方が地域の中に一人でも多くこれから増えていただければありがたいなと思っております。それらを、外国人の当事者の方のお困りごとをお聞きする機会ですとか、それら支援していらっしゃる方たちのご意見を伺う場、また他地域に暮らしていらっしゃる皆さんからのご意見それぞれをこれからたくさん集めていって、少しでも改善していきたいと考えております。

日生日本語学園のほうでは、生野区と包括協定を結んでいただいていることもございまして、やさしい日本語を使っていくこととあわせまして、多言語化の取り組みもさせていただいております。いろんな行政文書、全てではございませんけれども、

やさしい日本語につくりかえることとあわせて多言語化も特に今生野区で多いベトナムの方が非常に激増しておりますので、ベトナム語に翻訳したものをお配りしたり、ごみや自転車のところに標語をベトナム語で書いたものを貼らせてもらったりとか、そういう工夫もしているところでございます。

日生日本語学園の学生さんたちのご協力をいただきながら、いろんなイベントで「やさしい日本語」を体験していただくコーナーをつくらせていただく機会をこれから増やしていきたいなあと考えております。

また、「やさしい日本語」の講習会のようなものもこれからつくっていきたくて考えているところでございます。また、ご意見ありましたら、教えていただければありがたいと思っております。

○山口生野区長

ちょっと補足してもいいですか、すみません。

多分地域で今現にお困りであることで、例えばここ民泊かなっていうときで、民泊のあれがなかったらちゃんとそれは通報していただければと思っています。

あとは一つのマンションにたくさん住んでいるケースがありまして、これは多分寮であったりとか、どんな形かわからないですけど、まずはマンションの管理者の方に聞いていただければどの国の方がどんな感じで住んでるかということとはわかると思います。

今清水からありましたとおり、自転車のとめ方、それからごみのマナーに関するものは、多言語化したものが必要であれば問い合わせしていただければありますので、区役所の4階の企画総務のところまでちょっと問い合わせしていただければと思っています。

生野区としての考え方っていうのは、もう既に目の前にいてはるので、できるだけいい形で人と人としてお互いつながれたらいいなということもあって、この「やさしい日本語」という取り組みをやっているんですけども、大阪市全体でも今年度調査の上で方針をつくることになっていきますので、その方針に合わせていくことになります。

あともう一つ、私、浪速区に住んでいるんですけども、双子のアフリカ系の男の子小っちゃい子と女の子とお母さんと歩いてて、声をかけてみたんですけど、お母さんはもう来て2年だけど日本語は全然でした。子どもはベラベラ関西弁でしゃべってくるので、そういうときにとってもかわいいお子さんだね、みたいな話とか、ちょっと頑張って英語しゃべってみたりしながらしたんですけど、「ボイストラ」というアプリが非常に役に立ちますので、それで最低限のコミュニケーションはとれるかなと思っています。

あと、防災上の課題というのは実は生野区だけではなく、浪速区、中央区、全てにおいて大きな災害が起きたときの外国の人たちへの情報伝達をどうするかっていうのは、大変大きな課題です。生野区ではツイッターで災害時に「やさしい日本語」で情報を流したり、「やさしい日本語」で情報流すためのフェイスブックのページもつくっていますので、これをまず外国の方に認知していただくように努めているところです。今のところちょっとできることからやっていくということで、ご

意見もまたいただければと思います。よろしく申し上げます。

○田中委員

和田委員、お話伺って、ちょっとご回答を。

○和田委員

やっぱり聞かれるんですよ。どうしたらいいのって。わからないじゃないですか。答えようがないんで、今のお話はすごく参考になりました。区役所にそういう4階にあるっていうのも今よくわかったので、じゃあ区役所にそういうグッズがあるということと、ツイッターとフェイスブックに外国の方にわかるようなものがあるんですよ。

○山口生野区長

「やさしい日本語」で情報発信しています。

○和田委員

あるんですね。外国の方はそれはわかって…。

○山口生野区長

わかってもらうように今いろいろ啓発をしているところです。そこが結構課題なんです。

○和田委員

基本的には学生さんが多いんですか。

○山口生野区長

そうですね。今のところ学生さんが多いので、入れかわりも結構激しい。日本語ペラペラになれたかなっていう頃にまた新しく、そこらへん多分川上委員のほうがお詳しいと思います。

○和田委員

非常に参考になりました。ありがとうございます。

○田中委員

ありがとうございました。

○山本委員

先ほど外国人とのつき合いのことで役所のほうから説明がありました。地域に外国の人に一人でも優しい言葉かける人が増えていくことが大事やと、私も本当にそのように思います。

私も時々コンビニで物買うんですけど、カウンターに行くとなんか外国の方です。名前見たら「グエン」とか片仮名で書いてあるんです。ベトナムの人やなあと思いつつも、どこから来られたんですかって聞いたら、ベトナムです言うて、どのぐらいになりますか言うたら、半年ぐらいですとか1年ぐらいとか言うんです。日本語上手ですね言うたら、いやいやと言いつつもそれだけの会話なんですけど、そういう会話をどんどん広がっていけば相手の国の人もやっぱり通じ合うもんが出てきて、今先ほど言われたそういうような形になっていくんじゃないかなと私は思いますので、一遍皆さんも試してみてください。本当にお金払うときに私ら名前見たらわかるじゃないですか。中国から来てるのか、ベトナムから来てるのか、インドネシアから来てるのかとか、どこから来られたんですか言うたら、いや、インドネ

シアですとか、どのぐらいになるんですか言うたら、いや半年ですとか1年ですとか言うんですね。ほんで日本語上手ですね、受け答えしてくれますから、日常会話勉強してきてると思うんです。日本語上手ですね言うたら、いやいやと言いながらそれだけのことなんですけど、やっぱりそういうのがどんどん増えていったらお互いが通じ合うんちゃうかなと私は思います。ですので、皆さんもぜひ一遍試してください。

○田中委員

ありがとうございます。

○川上部会長

私とちょうど日生学園というのがございますので、これ2年でまた新しい子が入ってきてるんです。それで、今年のテーマはちょっと校長先生とお話ししたんですけども、やはり新しい子が来たときにやっぱりマナー、それから自転車とかごみの問題いろいろあるんで、それがどうしても初めての子は1年間ぐらいちょっと慣れないです。ですから、去年から始めとるんですけど、とにかく分散して各地域に住んでますので、これ入られるときにそのマナーを書いたものを作ってくださいと言って、ごみのマナーとか自転車の置くマナーとか、そういった一覧表を各部屋に全部置いてもらえるように今校長に言いました。それで、もう置いてると思います。日生学園の子に関しましては、450人今生徒なっておりますので、ほとんどベトナムが80%、あとインドネシア、スリランカ、ネパール、中国、6カ国いらっしゃるらしいです。まだこの調子では増えそうですので、今のうちにそういうこと学校のほうでもうとりあえず先に入るところのマンションの部屋には、もう各部屋にそれを貼っていただくということで、僕らその言葉がわかりませんから向こうの先生に頼んで、その言葉で書いていただいてこういうふうにやりましょうと、もう初めの子にもう渡してくださいと言うて部屋に貼ってもらってます。私とこの隣にもちょっと5、6人おるんですけども、そこ私も見ましたらちゃんと各部屋にそれ貼ってくれてまして、最近はもう夜も騒ぎませんし、静かになっております。最初のころはやっぱり、一昨年あたりは大分僕らも夜中うるさいなあという感じで見てみたけども、ごみのマナーも種類を分けるということも教えて、今それが受け継いで新しい子にはいっておりますので。

○和田委員

教えてやらないかんね。

○川上部会長

教えてやらないかんですね。やっぱりね。向こうも去年私食文化のあれで行事をやったんですけど、今年は何をやりましょう言うたら、校長が地域の人とコミュニケーションつくってほしいということを言われまして、ですから私とこの各町会の町会長にやっぱりそういうふうに優しく接してつき合ってほしいと、マナーを教えてやってほしいということを言いまして、できるだけいざこざが起きないようにということで頼んでおります。ですから、私とこ北巽だけやなしにほかにも住んでるのはあちこち住んでおられますので、やっぱりそちらのほうの方にもお願いしたいなと思っております。各町会長さんに頼んでおりますんですけどね。私らがやっ

ぱり先に声かけてやらないと、向こうはどうしても声かけにくいという部分がございますので、よろしくまたお願いしたいと思います。

○田中委員

ありがとうございます。

そうしましたら、ほかにもいろいろご意見あると思うんですけど。

○山本委員

10ページにプレスリリース38件、11ページに目標12件以上で実績が18件となっております。どのような内容なもののプレスリリースして、どんな内容がこれ取り上げられたんでしょうか。参考のためにこういうような内容だったということがわかればいかなと思ったんですけど。

○田中委員

お願いします。

○清水区政推進担当課長

プレスリリースした内容につきましては、例えば今「やさしい日本語」お手元に配らせていただきましたこれを始めるときにさせていただいたり、また12月に「やさしい日本語」からつながろうという区民センターで大きな外国人の皆さんとの交流のイベントを行いました。そちらのリリースをさせていただいたり、また子育ての「いくのっ子ひろば」の紹介をさせていただいたり、また去年の6月に第1回目の生野ラグビーフェスティバルというイベントもご紹介させていただきました。そういう大きなイベントについて、また新しく始めました事業についてのプレスリリースを行いました。昨年はこの「やさしい日本語」デザイン2種類あるんですけどもどちらにも生野という言葉を入れていないんです。これは生野区だけではなくて、全ての土地において場所において必要なことであるので、自由にこのデータをダウンロードしていただいて、全国でもお使いいただけるようにと、使っていただきたいという思いで、あえて生野という文字をなくしたんです。そのことから、今年はオリンピック・パラリンピック事務局でも、このデザインについてもご紹介いただきまして、広くこれから全国でもご紹介できるきっかけにもなっていくのかなと思っております。これに関して非常に数社からメディアのほうから取材をいただきまして、丁寧な取材で大きな記事にもしていただいたことがございます。昨年においてはこの「やさしい日本語」についてのメディアでの取り上げられた件数が一番多くございました。これからも効果的な報道発表を続けていきたいと思っておりますので、またご意見などいただきましたらありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

○田中委員

ありがとうございます。山本委員いかがですか。

○山本委員

本当に素晴らしいと思います。ちょっと話元に戻ってもよろしいですか。先ほどのインターシップの件ですけど、今ちょっといろいろ考えながらしてたんですけど、これ逆に言うたら、工業高等学校の生徒さんっていうのは大体進学率いうたらどうなんですか。半分ぐらいは行かれるんですか。もっと多いんですか。大学行かれる

のは。例えば就職するという事でインターシップに行かれたんでしょうかな。どちらにしても今日本の伝統的な文化といいますか、ものづくりといいますか、そういうものは別に日本人でなくてもテレビでよく紹介されるんですけど、海外から来て皆一生懸命やってるんですよ。ですから、別に工業高等学校だけじゃなくて、先ほども意見出ましたけど普通校でも何でもいいと思うんです。そこへも案内して、ひょっとしたら大学行こうと思ってたけどこっちのほうがいいわっていう人もおるかもわからんし、そうすることによって3人が4人になる可能性もあるんじゃないかなと思ったんでということです。

○田中委員

ありがとうございます。

いろんなご意見が出てきているということで、山本委員の今おっしゃったことはご提案と考えてよろしいんですか。

○山本委員

要するに紹介する学校とかをもうちょっと広めたら参加する人も増えるんじゃないかなという、先ほどどなたかも提案されてましたけども。

○田中委員

外国籍の方、あるいは外国の方にもご紹介していくということもありだということですよ。

○山本委員

そういうわけではなくて、日本の伝統的なものづくりとかそういうことは外国の人も大変興味持って、日本人以上に頑張ってるみたいなんで。ぜひ日本の中で工業高等学校だけに限らず、もうちょっと幅を広げて案内したらいいんじゃないかなというよう。

○田中委員

ありがとうございます。ご提案があったということですね。

ほかに何か。川上委員、先ほど何か言われようとしてましたので。

○川上部会長

いいですか。先ほど空き家の件の問題なんですけども、もう一つ悩みの種が私のところの地域で1件ございまして、皆さんにちょっとどういうふうな対処をしたらいいかお聞きしたいなと思っております。

去年の年末から清水課長のところにもちょっとご迷惑かけていろいろ対処していただいたんですけども、土地を持っておられる地主さんが近くにおられるわけなんです。それで自分とこの6件ぐらいのところももう古い建物だったものですから、もう皆出ていってもらったらしいです。建て直すのかなと思ってたら、そうじゃなくてそのまま放置されてると。誰も入らないまま放置されているということで、その一角のところには今ではごみの山になっていると思うんです。ごみを大変迷惑かけてまして、もう私も清水さんのところへちょっと言ったわけなんですけど、対処していただいたんですけども環境局並びに警察のほうにも言っていたんですけど、地主がおる限りさわれないというような状態なんです、法的には。今最近また私もずっと何度か見に行っておるんですけども、だんだんひどくなってきてし

まいに電化製品が半分ぐらい山積みになつとるわけです。今年の初めに4月ごろ行って、今何かネットだけ張ってかぶしてくれました。もう今放火の問題もございますし、ネットかぶしてくれてそれから防犯カメラを一応設置していただきました。それで、業者がほりにくるのを防犯カメラで察知して、それを後追跡してもらおうという形に今なっているんですけど、確かに業者もほりにくるような状態でしたんで、防犯カメラでそれ監視してもらっております。その地主がなかなか話し合いに応じないような、ちょっと変わった方でして、何しろ一銭も出さないと。処理代に一銭も出さないとというような状態で、その家も壊す気もない。放置してるんです。税金の問題もございますんでしょけど、もう問答の末これ以上言い合いっこしてもしょうがないような状態に今なっているわけなんです。これ以上先どうしたらいいもんか。もうだんだんのごみは増えてくる。それで放火が冷や冷やしてるんですけど、放火がされるんじゃないかと。中には一般の方が通りがかりでちょっとラジカセをほってあったら、それを持って帰る人もいらっしゃる。そういう方も黙認して見とったんですけど、そういう方もいらっしゃるということで、これどない、強制どうしてもできないらしいんですけども、強制執行なんかする方法ないんでしょうか。

○田中委員

ごみについては法的な話でよろしいんですかね。

法的な話で何か方法はないんでしょうかって、ご相談だと思うんですけど。

○川上部会長

何とかきれいにしたいと思うんですけど。

○中村地域まちづくり課長

そのお話は私も重々承知はしております、川上委員とも直接お話をさせていただいていろいろとやってるんですけども、ちょっと空き家対策という観点でちょっと考えてみようかなというのは今検討しかけてるところです。もともと今特定空き家という形で危険な空き家に関しては、指導していった場合によっては最終的な強制代執行というよっぽどの場合ですけども、そういうこともありますけども、この特定空き家の要件というのは四つありまして、危険な家屋とそれから環境悪化させてるとか、それとか衛生上問題があるとか、景観上問題やとかそういったものがあるんですけども、ちょっとこちらのほう残り三つのほうについて基準が今のところ大阪市まだ決めてないんです。ケース・バイ・ケースで考えるということありまして、ちょっと今大阪市の中でも空き家の検討する会議といいますか、それが生野区はメンバーとして入ってますんで、その中でちょっと関係局を集めてその基準づくり、すぐにできるかどうかわからんのでちょっと検討していこうかなと思ってるところです。その際当然我々生野区も入って、その検討の中で入って行って今はお知らせというレベルしかできない状況になっております。法的にもですからもっと強い意見なり指導なりできるようなことができないかなと。それをちょっと検討していきたいなと思っております。ちょっとまだ具体的にそしたらいつぐらいというのは言えないんですけども、その点は課題として大きな課題というのは重々認識しておりますので、また動きが出てきましたらまたこういった場でも報告させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

○川上部会長

よろしく願いいたします。

○田中委員

ありがとうございます。魅力発信というところで空き家の利活用という考えもあるんですが、一方で空き家のそういった問題、対策をとらないといけないという問題も出てきているわけで、それ両人でやっていかないと空き家問題というのは解決しないということなので、ご指摘委員のとおりだと思います。特定空き家というところで、対策をとっていくというようなお話があったということなので、一緒に知恵を出しながら協働でやらないといけない問題かもしれないですね。

この件について、何か。

○亀田委員

今の空き家のごみの量って結構すごい量になってるんですか。

○川上部会長

すごいなってますね。

○亀田委員

その場合って昔ごみ屋敷で強制代執行でごみどけるいうのをやってましたけど、そっちの扱いでどけるみたいな検討もできるんですか。

○中村地域まちづくり課長

ごみ屋敷というのは基本住んでるというのがあるんですけど、それは中でも議論しまして今ごみ屋敷は大阪市条例でごみ屋敷条例というのができてまして、ただ実際には適用されたのは1件ぐらいしかないんです。この場合、ごみ屋敷の場合は住んでる本人さんの心のケアとか、そういったことも考えながらやっていくことになって、なかなか強制的にというのが難しい点はあるんですけども、せっかく条例があつていろいろできるというのがありますから、対応できないかなというのでも検討してるんですけども、ちょっとなかなか住んでおられないし、自分がため込んだごみではないという微妙なところがあるんですけど、ほかがほった、自分でため込んだきたらまさにそれごみ屋敷で自分の屋敷内ということあるんですけども、今回相手さんもおっしゃってるのは私のごみではないというところがある。ここはなかなか難しいところなんです。しかし、やっぱり管理責任はあるんじゃないかというところもございまして、そういった点さまざま点ちょっと考慮して一定の基準をつくって、この基準に該当すればこれは指導対象ですよとかいうようなことを検討していきたいなというふうに考えております。

○田中委員

ありがとうございます。

○亀田委員

なかなか難しいですね。僕の住んでる家の前ももう長屋というか、連棟なんですけども、屋根落ちてる状態なんですけど、隣が大家さん住んでるんですけども、もう年も年やからいうて借家やったんですけど放置のまま。売るに売らないいう形で、ほかにも何か壁落ちてるけど売って言うても売る気ないいう話のところは何件かある感じなので、売買結構めんどくさがる。死んでから後やってみたいな感じで

言いはる人が多いのが、ちょっと困りどころかなというのが何か今の空き家の活用しない空き家というか、活用されない空き家のところがもう年やからめんどくさいから死んでから後好きにして、今いらいたくないっていうめんどくさいのか何かちょっとわからないですけど、そういうのが多いんかなという印象受けるときが多々あります。

○田中委員

ありがとうございます。すごく問題が複層していて、単純に一つの問題だけでは解決しないというのがこの空き家の問題、対策ですね。確かに利活用で非常にいろんな住まい方、暮らし方を発信していくのも大事ですけども、こういう町の中でいろいろ課題になっている空き家対策という部分をやはりコミュニティとともにやっぱり解決していかないといけない問題かなというふうに思います。

ありがとうございます。

ほかに何かございませんでしょうか。

お願いします。

○亀田委員

ちょっと、一個戻ってる感じなんですけど、ごみ出し案内とかの件で、大阪市のホームページですかね、ごみ出しABCっていう案内の、ごみの分別ABCやったかな、何かそういうのがチラシであったのをホームページで取り込んで印刷できるようにして出してはったと思うんです。あれ今確か英語と中国語、韓国語だけやったと思う。例えばベトナム語作って生野区用に作るとかいうことしたりはないのかなというのと、あとちょっとホームページで日本語のごみ出しABCの分別のやつと同じページの大分下のほうに外国語用というのが、日本語で書いてあるんです。だから日本人が外国人の方に印刷して渡すのはいいんですけど、外国人の方が探すとなると探せるんかなと思ったりして、ちょっとそれはどうなのかなというのが一つ。

あと、中川なんですけど、外国人との会話の件なんですけど、先ほど区長がアプリがある言うてたんですけど、それと別に「イーリートーク」って翻訳機、音声しゃべってあれ中川2台購入しまして、災害対策用で、ただネット環境がないと翻訳できないという大きな欠点があるという。携帯電波がつながればテザリングいうて、これをインターネットの中継器にしたりとか、あとSIMカードを差せば、そのまま電話回線使って通信できる機能はついてるんで、それで翻訳はできるということで一応災害時に外国人の方来たときに全くしゃべられへんのも困るから買っとこうということで買って。こないだちょっと海外行く人にとりあえず使ってみていうことで、使ってもらったら、アジアのほうちょっと行ってもらったんですけど、結構ちゃんと使えました言うて結構好評でしたんで、そういうのも機材を買っていくのも一つの手かなと。

○和田委員

今の名前もう一回教えて下さい。

○亀田委員

「イーリートーク」っていう。ポケットークとかいろいろあるんですけど、値段的

にそんなに高くなかった。今のイージートークって通信SIM内蔵になってるんで、電源入れたらもうそこで電話回線使っちゃうんです。もう登録が何カ月とか決まってくるんですけど、そのイージートークというのはSIMカード自分で後で差せるんで、別のSIM買ったっていざというときに差せば、そこから使えるようになるということなので。ふだんはWi-Fiで電話回線のカードは使わずにずっと置いてけるいので、それでちょっと選んだんですけど。あとオフラインで使える機能がええやつ出てる。そっちがええなとは思うんですけども、なかなかええのが出てないんで今後の機能の拡充に期待をしながら、またいろいろ調べてもらえればなと思います。

○田中委員

ありがとうございます。コミュニティでそれは購入されて。

○亀田委員

まち協で。防災関連予算で、一応防災の備品として。小学校等で中川、大池中学校があるんで、大池中学校用と避難所、それぞれ1個置けるようにという形で。値段も2万ぐらい。

○田中委員

それを3台ぐらい買われて。

○亀田委員

学校に一つずつ分。

○田中委員

すばらしい。

○橋本企画総務課長

ちょっと参考になんですけども、大阪市のホームページ、ごみの出し方日本語というのがあるんですけど、それ一番上のところにランゲージというところがありまして、それ開けて見ていただくと普通は韓国語とか中国語とかそんなが多いです。ずっと送っていただくと30カ国語ぐらい変換するようなものが出てるんです。中にはベトナム語というのもありますんで、正確にベトナム語はこれでわかりますと自信も持って言えるあれではないんですけど、大まかなことは多分わかると思うんです。それをベトナム語のわかる方が見られればということで、ちょっとご参考にご紹介をさせていただきます。それはごみのところだけでなくって、大阪市の全ページのところなんですけど。

○亀田委員

わかりました。ありがとうございます。

○橋本企画総務課長

ただ、多分これ入ってるのがグーグル翻訳なんで、正確に確実にそれが訳せてるかっていうのは、自信を持っては言いがたいところはあるんですけど、ただ大まかなところは見たらわかっていただけかなと。どこに電話したらええねんみたいなぐらいはわかるかなとかと思います。

○田中委員

本当にいざというときに必要ですよ。確かにおっしゃるとおり、防災以外にも犯罪にあたりとか、あるいは病気になったりとか、そういった不慮のというか、

出来事に関して困ってらっしゃる方がいらっしゃるという話なので、とても大事なお話を聞けたなと思っています。

○亀田委員

イベントなんかのときでも防災用には買ってるんですけど、いざ敬老祝賀会とか、夏祭りのときに外国人の方がふらっと来られたときに説明にも使えるっちゃあ、使える。ほかにも流用はきくので、買って損はないかなという形で。ただ、ある程度機械に強くないと、操作自体はボタンを押してしゃべるだけなのですごく簡単なんですけど、ただインターネット環境につなぐ方法がめんどくさい。最初の設定が機械に強い人がやらないと難しいというのがあるので、それだけやっぱりちょっと最初の導入にけつまずきそうな部分があるんですけど。

○和田委員

しゃべったらしゃべり返してくれるんですか。

○亀田委員

ボタンがついてて、例えば選択で最初の設定で日本語と英語とか、カンボジア語とか何か設定しといて、日本語しゃべる側のボタン押して例えば「こんにちは」ってやって、離すとここに「こんにちは」という例えば英語やったら「ハロー」って出てきて、ディスプレイにちゃんと日本語と英語両方出るんです。例えば長文で話したときに間違ってたら、しゃべった文章が日本語で出てくるので間違えてたらこれ間違いつてジェスチャーでも何でも言えるというか確認しながら。相手側がしゃべるときは相手側ボタンがあるんで、そっち押しながらしゃべってくださいって出せば、しゃべってもらったら次ぱっと外国語の文と日本語の文も出るんで、音声で聞き取れなくても文章見せてもいいけるみたいな使い方もできるんで、結構便利は便利です。

○山本委員

スマホでもできんのちがう。

○亀田委員

ただスマホでもできるんですけど、翻訳の時間が早いんです。グーグル翻訳使うよりも。専用のソフトでの翻訳アプリ、スマホのやつ使った場合はちょっと調べてないんですけど、グーグル翻訳の回線、スマホでやってるよりはワンテンポ、ツーテンポぐらい速いのと、あと翻訳精度、同じグーグル使ってると思うんですけど、そこまでは変わらんとするんですけどまだちょっとましかなという感じです。

○田中委員

グーグル翻訳も今そんなにおかしな訳し方、あまりなくなってますけどね。

○亀田委員

そうですね。たまに何書いてるか調べるのに見てますけど、そんなに変な翻訳にはならない。

○田中委員

ならなくなってきましたよね。

○亀田委員

結構専門的な翻訳もそこまで違和感、昔は変な翻訳多かったですけど。今はそこ

までおかしな翻訳ならんのかなど。あと、スラング的なものもちゃんとある程度翻訳してくれる場合もあるんで、そこは便利かなど。結構関西弁もちゃんと認識してくれる場合があるんで、あかんときはあかんときでしゃべり直しができるので、その点は便利かなというのがあります。

○田中委員

コミュニティでまち協でそういったことをやろうということになったこと自体、すばらしいなというふうに思いますけども。

ありがとうございます。

ほかに何か。お願いします。

○伊藤委員

空き家の件でちょっとお願いも含め、ちょっとお伝えしたいなということがあるんですけども、私空き家の活用のプロジェクトかかわらせていただいてまして、毎月生野の、19日に空き家カフェというのを開催しているので、そちらも可能な限り参加しているんですが、5月19日ちょうど日曜日だったかなと思うんですけども、いつもはこんなふうにテーブルにみんなついて自己紹介とかこれまで行ってきた活用事例なんかの紹介なんかをする会、マッチングにつなげていこうという会ではあるんですけども、なかなかやっぱり物件を実際に見に行くということが少なくて、会もちょっとマンネリ化してきてるような状況があって、どうしたらいいかなというの去年ぐらいからいろいろ議題にも上がってたんですけども、5月19日ちょうどお休みだったということもあって、まち歩き兼ねて空き家めぐりをしたんです。そうするとやっぱり実際に空き家を見てみると、映像とか写真とかで見る空き家とはやっぱり違う魅力がある。わかりやすかったり、町の雰囲気も含めて何か興味持ってくださいの方がいつもとは違うなという状況が感じれたのがすごくよかったなと思うんです。空き家カフェに参加してくださってる持ち主の方、何名かはいらっしゃるんですけども、なかなか参加くださる方が増えないっていう悩みが実はありまして、さっきも活用されない空き家の持ち主の方、めんどくさいって思ってるのかなってお話もありましたけれども、もうどうしてもめんどくさい方を無理やり引っ張り出してとまでは思わないんですが、空き家を何件か持ってらっしゃってでもどこに相談したらいいのかわからへんとかいうちょっと興味ある人いるんやったら見せてもいいよとかいう方がいらっしゃれば、ちょっとご紹介とか、お話伺えるようなことがあるとうれしいなと思ってます。

この前、ちょっと東住吉区の空き家の事業、空き家の取り組みの中で生野区の活動の状況を紹介してほしいと言われてまして、私ちょっと行って空き家カフェしてることでとか、これまで取り組んできたことを紹介させていただいたんですけども、やっぱり東住吉区のほうでも同じように協力的じゃない地主さんがいるとか、ほったらかしになってる建物どうしたらいいかなっていう同じような悩みがやっぱりあるんやなというのを感じました。

ものづくりもそうなんですけど、空き家の問題とかも何か一体に体験、見学みたいなことが年に何回もするのは難しいかもしれないですけど、空き家カフェ拡大版みたいな感じで年に1回生野区のまちの雰囲気とものづくりの魅力とちょっと空き

家のおもしろさ、路地のおもしろさみたいなんが体験できる機会をつくれたら、すごいおもしろそうやなと思いました。

以上です。

○田中委員

ありがとうございます。伊藤さんはずっと空き家カフェ当初からずっとプロジェクトにかかわられて、空き家を探すのも歩きながら探していたという経緯があって、それが発端になってまち歩きと空き家のカフェが一体になってっていうような試みをやられていて、ある一定の4件もの成約が出てきたということで、4件成約が出てきてそれをビデオで動画に撮ってどんな暮らしされてるのっていうのを空き家プロジェクトの動画を配信しているというような、すごい全国的にみても珍しいというか、やられてないようなことを実はやってて、しかも府の中で長屋が一番生野区が多いという中、空き家も大阪市では2番目とか、3番目に空き家が多いという状況の中で一つずつ取り組んでいくということなんですけど、今後はどういうふうな動きになっていくのか、何かもしございましたら。

今課題は出していただいたんですけども、これから今までも一つずつやって来られてある一定成果が出ているということなので、ちょっとお話、今後どういった、地域にずっとそういうものをいろんな地域に広げていったほうがいいという方向なのか、どうなのかですよね。

○伊藤委員

そうですね。いろんな地域にももちろん広げていったらいいなと思うんですけども、やっぱり思うように進まない難しさですとか、やっぱりケース・バイ・ケースなので、こういうやり方でやったら絶対成功しますよみたいなんがない難しさ、逆に言ったらおもしろいのかもしれないんですけども、やっぱりそういうのを根気強くしていかなあかんあというの思ってます。

空き家カフェのこれからの話で、ちょっと話出てますのは毎回会議に2、30人集まってくさるんです。オーナーさん、あと借りたい、使いたい場所探しているという方と私みたいに設計してるのか、工務店の方とか、あともちろん区役所の方も参加してくさってますし、お金の相談受けてくださるファイナンシャルプランナーの方ですとか、不動産の方、あと金融公庫の方とかもたまに来てくださったり、ジェイコムさんとかそういう方も来てくださったりはするんですけども、やっぱりそういう大人数集まってる中で限られた時間で話、やりとりできることって少ないというか、余り詰めた話できないなあというところもあるので、今年度はオーナーさんだけ集まって実はこんなこと悩んでるやけど、いっつも話できひん、ちょっともやもやしてたんやけどっていうのを話できる場、毎回参加して場所探してるっていう方があるけど、実はああいう方はちょっとお断りしたい。みんながいる場では言われへんけれども、お断りしたい。こういう人には来てほしいっていうそういうオーナーさんの実は抱えている要望を聞くということをしていこうかなと。そういうオーナーさんだけの会と、あとやっぱり借りたい人とかも空き家カフェ毎月19日ってしてるのはすごくわかりやすくていいなと思う反面、やっぱり平日開催とかになるとお勤めしてたり、平日何か動けない事情がある方にとっては参加し

たいけどできひんみたいなのもあるので、お休みの日とか、夜の時間に借りたい人だけの会をしましょうかという話も出てたりします。

空き家カフェだけにとらわれずに何か広くつなげていけるようなことはしていこうかなというのが、今実際出ているとこのこれからの動きです。

○田中委員

ありがとうございます。そういった状況だとお話しいただきました。

いろんなお話がどんどん出てきているんですけども、何かもしこんなことってお気づきのことがあったら、この際ですので言っていたらいい。

○亀田委員

すみません。亀田です。空き家カフェのマッチングって大体借り手、貸し手みたいな賃借系が多いですかね。売買とかはないっていうか。

○伊藤委員

売買もありますし、生野区やっぱり地主さんがある程度の土地持ってはる地主さんがいて、その上に借家を建てて長屋とかもそうですけど。

○亀田委員

借地権とか。

○伊藤委員

そうですね。ですので、空き家カフェというか、空き家のプロジェクトで最初にお手伝いさせていただく、まだ1号案件で言われているハヅメさんという物件があるんですけど、そこはもう本当に6軒長屋の一番端っこの上屋だけ購入されて、土地は地主さん売ってくださらなかったの、借地契約してという形でその後工事してということで進めていたんですけど、売買の相談っていうか、買いたいっていう希望の方もいますね。

○亀田委員

個人的にはいろいろ自分で家買ってリフォームして貸してはおるんであれなんですけど、でも住む家やったら住宅ローンで年収の何倍っていうか、何千万って借りれるんですけど、通常の賃借物件を買う場合でしたら普通のローン、フリーローンとかでしたら年収までしか借りられないという制限があるみたいで、要は買いたくてもお金足らんというのがこないだあって、そういうのでいろいろめんどくさいっていうか、昔はそんななかったっていうか、逆に事業ローンみたいなんで借りないとなないかなという感じで、ちょっとハードルが上がるのかなとか思ったりすると、大体こういうの古民家再生というか、古いのを生かすという感じでやってはるんで、僕逆に全部柱だけ残して外側も全部やりかえちゃうのが多いんで、余り見た目が現代的になってしまってちょっと違う感じなんですけれども、リフォームは結構してはおるんでちょっと興味あるっちゃあるんですけど、ちょっと毛色が違うなという感じな使い方してるので。

仕事の的には古民家再生じゃないですけど、長屋のオーナーさんが借り主さんの好きな間取りでリフォームして、でき上ってそのまま貸すいうところの改修してるところを見たりもしてるので、その場合ただ結構いろいろ話聞いて始まってから入居までの期間がすごい長いんです。要は話、こういう間取り、例えば表に土間のたたき

があるところでしたら、そこ花屋さんにするからというて奥に住居で、花屋仕様でここにシンクがあって、ここ簡易の冷蔵庫置きたいんでここ広げといてくださいみたいな話で工事したりとか、あと途中でレイアウト変わったり、ちょっと違うなっとなったりしてとかで、そういうので入居者の方もマッチングしてしまえば、案外長いこと住んでくれるしいのかなと思ったりはしてます。結構そこを僕今仕事し出したとき、初期ぐらいに水回りさせてもらって今まだやってはるんで、長いことずっと入ってはるんで、そういうのもうまいこと合えばいいかなと思います。

以上です。

○田中委員

ありがとうございます。

いろいろご意見が出てきたようですけれども、何かこれだけは言っときたいとか、お話がございましたら、いかがでしょうか。

○服部副部長

外国の方、結構みんないいような話ばかりしてはるから反対の意見もせなあかんかなと思って。騒ぐのは騒ぐ、警察に言うていって治まって、また20分したらまた騒いでるいうふうな話も聞いているし、私は直面したんですけども、朝7時ごろによその家のガレージあけて入って、そこで座って酒飲んでる。何してんのって言うたら、わからん言葉でしゃべってくる。警察へ電話したら警察来て、何やかんや言いもってなかなか出ていけへんから、もう警察もしょうがないから引っ張り出して出てもらった。昔からあまりええ思いしてないんで、拒絶反応かなり起こしてるんですよ。だから、みんなええ話ばかりしはるなあと思ってたわけ。果たしてそうなのかなと思って。昔からつき合ってるやつにはだまされるし、いろんな嫌な思いがたくさんあるんで、あまり外国の方、いい人もいてるんやろうと思うんですけども、当たる人当たる人が余りええことないんで、拒絶反応がきついかんと思ってるんです。そんなとこです。

○田中委員

はい、お願いします。

○山本委員

ここで話されてることは私は決していい話ばかりじゃないと思うんですよ。いい話というよりか、現実はこちらに皆さん住んでおられるから今副部長から言われたようなこともあるから、それはそれでどう解決していかなあかんかなということやと思うんです。最終的には警察が連れて行ってくれたということですから、それで解決になるんかどうかわかりませんが、しかし現実に住んでると、これから来るんじゃないで現実に住んでるわけですから、それはもう仲よくしていくほか道はないと思うんですよ。ただ、なかなかこっちの思惑が向こうに伝わらない。そういうことがあるのもう恐らく1年や2年では、もう本当に一つ一つ積み重ねて、さっきのこういうようなことやったりとか、声かけ、先ほどもおっしゃったこちらから声かけないと、そうやと思います。そういうことをやっぱり積み重ねていって、だんだんだんだんやっぱり仲よくなってもらって、特にこの4月から外国人労働者5年間で34万人とか実習生、また入ってこられますので。ある地域ではもう外国人

の自動車産業の地域では、外国人のほうが多い町もあちこちあるんですよ。そこはそこなりにいろいろ工夫してやっておられるわけですから、我々もやっぱり皆さんでいろんな意見出しおうて、今服部さん言われたことも現実にあるわけですから、それはそれでどない解決していこうかと。最終的には警察に任せなきゃあないですよ、それは。そういうこともあるけれども、それ以外のことはやっぱりみんなで話し合いをして、どうしていくかというふうにしていかな仕方がないかなと思います。

それと、空き家のことも伊藤さん頑張ってやっていただけてますから、それはそれで私ものすごい立派なことやと思いますし、後はもう自然淘汰といいますか、今生野区私も自転車であちこちよう行くんですけど、見たら結構新築の家たくさん建ってるんですよ。古い家潰して、皆さん地域どないですか。私よその地域行っても、結構、またそれも売れるんですよ、あれ。売れるということは多分さっき住宅ローンのお話出しましたが、住宅ローンがなかったらなかなか買いませんからね。20年とか30年とか、ということはやっぱり若い人が入ってきてるんちゃうかなと思うんです。というて、そんな私ら後何年生きられるかわからへんけども、伊藤先生みたいにやっぱり頑張ってもうて、それはそれなりに実績上げてもうたら少しでも解決するんちゃうかなと思います。

○田中委員

ありがとうございました。

そろそろ時間が、話は尽きないと思うんですけども、時間がきてしまいました。残念ですけども、これでもしご意見がないようでしたら、これで意見交換を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

では、事務局のほうにお返しいたします。

○川上部会長

田中委員、どうもありがとうございました。

事務局から連絡事項がございましたら、よろしく願いいたします。

○橋本企画総務課長

委員の皆さま、ありがとうございました。多くの有意義なご意見をいただきまして、ありがとうございます。本日いただきましたご意見につきましては、6月21日の全体会で部会として報告をしていただくことで、他の部会の委員の皆様にも共有をしていただきます。

報告内容は事務局でひとまず整理をさせていただきますので、部会長、学識委員と調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

また、ここで一つお知らせでございますが、区政会議に関する本市の条例によりまして、本年の9月末をもちまして、現委員の皆さんの2年間の任期が満了となります。次の区政会議の部会は、10月以降に開催を予定しておりますので、本部会で現委員の構成としては本日が最後となります。区政会議委員の改選につきましては詳細は、次回の6月21日に開催予定しております全体会にて、お知らせをいたしますので、よろしく願いいたします。

事務局からの報告は以上でございます。

○川上部会長

どうもありがとうございました。

それでは、本日の会議を踏まえまして、山口区長から一言お願いいたします。

○山口生野区長

皆さん、ありがとうございました。

山本委員が最後にまとめていただいたみたいにやっぱり不愉快な思いをして、今までそういう実際今地域で困っているんだという声もありながら、ただ今日の前にたくさんの方が一緒に住んでいる町であるというところで、一つずつ地域でもそれぞれ考えていただいていますし、私たちも大阪市としてもやっていけないといけないと思っています。私、この若いアジア圏の若者たちを見るときにいつも思うことがあります。大体19、20歳前後なんですけれども、やっぱり国から出てきて言語のわからない、それも日本語ってかなり難度が高い言語ですので、それを学んでやってきて、そして地元ほぼ借金っていうか、学費を借金して来ていますので、コンビニなり飲食店で働かないととにかくやっていけない若者たちが夢を見て来るんです。その若者たちを安く使うっていうたら悪いんですけれども、やっぱりコンビニであったり、飲食店というのは使わないと回らない、日本人の生活は彼らによって既に支えられてる状態であるということ、そのことをいつも考えます。何人かとしゃべったりするんですけれども、将来パティシエになりたいんだとか、いろんな夢を持って来ています。彼らの夢がかなえばいいなと思うと同時に、日本の若者はこれからいろんな国の人たちと一緒に働いて、当たり前のように働き、当たり前のように暮らし、ひょっとしたら家庭を持ちというような世代になっていくんだなということも感じています。生野区っていうのは、全国でも先んじて多文化のまちであるということをしていろんな課題解決もしながら、やっぱりポジティブに考えていって、生野で育つ子どもたちが実は将来的にあと10年とかしたときに、日本のいわゆるトップランナーというか、外国の人と当たり前のように働けるよう、当たり前のように理解し合えるよというような、そういうグローバルな感覚を持った子どもたちになるんじゃないかという期待も感じています。なかなかそれぞれの地域では受け入れられない場面とかあるかもしれません。そのときは相談していただければ一緒に解決していきたいと思っていますので、今日のご意見、あと空き家の問題でありましたものづくりの話でありました貴重なご意見いただきました。また、区政に生かしていきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

○川上部会長

どうもありがとうございました。

区政会議は生野区の将来について区民同士が率直に情報交換をしたり、意見語り合える場であります。

また、6月21日金曜日には第1回全体会議の開催が予定されておりますので、今後も活発なご意見をよろしくお願いいたします。

それでは、これにて本日のまちの未来部会を終了いたしたいと思えます。

すみません。このメンバーでもう最後ですね。このメンバーでの部会は本日で終

了ということでございます。皆さん、どうもこれまで本当にお疲れさまでございました。